

御由緒

言い伝えによると当神社の起源は遠く大宝元年（西暦701年）に紀州熊野12社の一社を勧請され、現在の御本殿は元禄14年（西暦1688年）に再建されたといわれています。

備前国内式外105社の一つで神階は正四位下です。明治40年（西暦1868年）には村社に列格し、同時に神饌幣帛料協進神社に指定されました。昔は早瀧比咩の明神とか早瀧大明神とか呼ばれていて滝一円の氏神様です。

その後本殿の屋根は平成10年（西暦1998年）に銅板製に葺き替えが行われています。

拝殿（客殿）は昭和5年（西暦1930年）に、本殿を西側に移動して現在位置に建立され、最近では平成29年（西暦2017年）に屋根瓦の葺き替えが行われました。いずれも氏子の寄進による大きな工事です。諸先輩方の努力と氏子の協力によって現在の景観が保たれています。

末社である龍神社は原始信仰の滝と岩を神々と崇めたのが元で祀られ、この地方一円の雨乞いの神様となっています。

毎年10月の秋祭りにはお神輿とダンジリの巡行があり、無形文化財的な「シャギリ」を玉野市内で唯一継承している神社です。また5月5日春祭りには子ども御輿を巡行します。

神社近郊の見どころ・早瀧自然公園

丁石（道標）：船で日比、秀天、八浜港に着いた参拝者はこれら丁石を目印に由加山を目指しました。

天狗の足跡：天狗が大峰山から石鎚山へ下る途中、この岩の上でしばし絶景に見とれたといわれます。



天狗の足跡



丁石

島池遊歩道：旧由加参道の要所です。明治10年新道が築造されるまで利用されていました。

一の滝、二の滝、三の滝：山水画の世界へどうぞ。



御神輿巡行



だんじり巡行



手水舎・石鳥居・石灯籠



北東方向からみた本殿



噴水池

玉野市には希少な滝群です。

熊蔵橋：現在の橋の下に見える一枚岩の橋は、大変力持ちの熊蔵さんが一人でかけたと伝えられています。

恵比寿、大黒岩：巨岩、奇岩に囲まれたこの地の山腹にひととき大きな岩が笑っているように見えます。

千本桜：宇野在住の篤志家の方が石川善右衛門の築造した池の堤塘に植樹され公園づくりの発端となりました。桜の成長に伴い根が溜池の土手を痛める可能性があり、現在は手入れはされていません。

髪すき岩：近在の乙女が清流を水鏡にして髪をすき整えたといわれます。

龍岩：公園内の奇岩、巨岩の中でもっとも身近にある巨岩です。石鳥居をくぐる時すぐ左手に見えます。